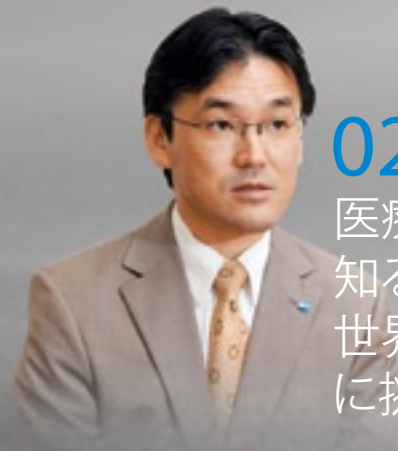


# MILESTONE

マイルストーン：一歩一歩の取り組みを大きな道しるべに



**02** 特集:コニカミノルタ  
ビジネスクローズアップ

医療現場の声を  
知る技術力で  
世界シェア35%  
に挑みます



**03** 経理部長の  
財務レポート

財務体質の強化に  
取り組んでいます

**01** トップに聞く

次なる成長機会へ向け、  
体質強化に取り組めます



01 トップに聞く P.1

02 特集:コニカミノルタビジネスクローズアップ P.5

03 経理部長の財務レポート P.7

04 CSR(企業の社会的責任)への取り組み P.10

05 情報ピックアップ P.11

06 コニカミノルタのそこが知りたい P.12

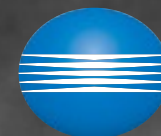
07 会社概要 P.13

08 株式の状況 P.14

**株主通信 2008年秋号**

2008年4月1日から2008年9月30日まで

コニカミノルタ ホールディングス株式会社



# 01 トップに聞く

## 「次なる成長機会へ向け、体質強化に取り組めます」



事業環境が大きく変化する中、最終年度を迎えた中期経営計画

『FORWARD (フォワード) 08』への取り組みと今後の進むべき方向性について、  
代表執行役社長の太田 義勝がご説明します。

株主の皆さまには、日頃から格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当第2四半期累計期間(2008年4月1日から9月30日まで)は、世界的な景気減速や円高の影響を受けた結果、連結売上高は5,329億円(前年同期比1.5%増)、営業利益486億円(同14.7%減)、経常利益478億円(同12.4%減)、四半期純利益292億円(同22.2%減)と、増収減益になりました。こうした実績に加え、先行きの需要や価格動向、為替変動など事業環境の不透明感が想定以上に増している現状を踏まえ、当下半期の販売予想を見直すとともに、通期の連結業績予想を修正することになりました。

なお、株主の皆さまへの剰余金の配当としましては、お知らせしております通り、当第2四半期末配当金は1株当たり10円を実施いたします。また、当第2四半期末と期末配当を合わせた年間配当金につきましては20円の実施を予定しております。

コニカミノルタホールディングス株式会社  
代表執行役社長

**太田 義勝**

# Q1 この6カ月間の業績に対する評価をお願いします。

## 「想定以上の市況変化で、情報機器事業が伸び悩みました」

当第2四半期累計期間は、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安や、原材料ならびに資源価格の高騰が世界経済に大きな影を落としました。そのような状況の中、当社グループの業績は売上高については前年同期を上回ったものの、営業利益、経常利益、四半期純利益はいずれも減益という厳しい結果になりました。主な減益の要因としては、当社グループの中核事業である情報機器事業における収益の減少が挙げられます。

情報機器事業では「ジャンルトップ戦略(成長が見込まれる事業領域や市場に経営資源を集中して事業拡大を図り、その中でトップポジションの地位を確立していく)」の基本方針に沿い、オフィス分野では国内外において需要が続くカラーMFP、また商業印刷分野では成長が見込まれるプロダクションプリント用高速MFPの販売に注力しました。その結果、カラーMFPの販売台数は前年同期比で約20%増と堅調に推移し、プロダクションプリント分野の売上高も前年同期を上回る実績をあげました。しかしながら、米国で始まった景気減速は、同事業にとって最大市場である欧州においても第2四半期後半には顕在化し、MFPの販売に影響を与えました。このような当初の想定を上回る市況悪化により、MFPの販売を思うように伸ばしき

れない中、競争激化による価格下落の影響も増大し、減益となりました。なお、売上高については米ドルに対する大幅な円高による減収の影響がありましたが、米国において2008年6月に買収したダンカ・オフィス・イメージング社の業績が当第2四半期から連結対象に加わったことで、ほぼ前年同期並みの水準を確保しました。

一方、戦略事業であるオプト事業は、VA-TAC(視野角拡大フィルム)、BD(ブルーレイディスク)用ピックアップレンズ、ガラス製ハードディスク基板の販売が牽引し、第1四半期より増収増益基調を保っていますが、残念ながら情報機器事業およびその他事業での減少分を補完するまでには至りませんでした。

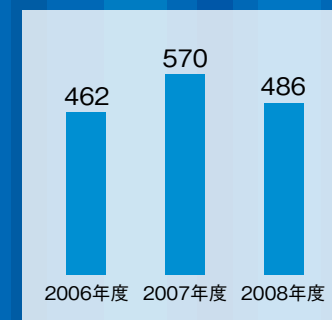
以上のような当第2四半期累計期間の実績、ならびに世界的な金融危機が实体经济にまで影響している現状を踏まえ、主力製品であるMFPを中心に下半期の販売予想を見直すとともに、為替レート的前提を米ドルは当初予想していた100円から95円に、ユーロは155円から120円へと円高に置き直した結果、通期の売上高は当初予想から750億円減少の1兆350億円、営業利益は400億円減少の800億円、当期純利益は280億円減少の420億円と修正することになりました。

### 第2四半期 連結累計期間年度推移 (億円未満切捨)

#### 売上高 (億円)



#### 営業利益 (億円)



#### 四半期純利益 (億円)



## 情報機器事業



売上高は前年同期並み。

営業利益は価格下落や研究開発費などの増加により27.7%減益。

## [MFP分野]

●**カラーMFP**:戦略商品「bizhub (ビズハブ) C200」を海外で投入し商品競争力を強化。

●**プロダクションプリント**:高速カラーMFPの新製品「bizhub PRO C6501・C5501」の販売が、欧米市場を中心に順調に推移。

## [プリンタ分野]

●高速カラープリンタやオールインワン型カラープリンタなどの高付加価値製品を投入し、一般オフィス向けにラインアップを拡充。

売上高 ▶ **3,437億円** 前年同期比 ▶ **0.9%減**

営業利益 ▶ **323億円** 前年同期比 ▶ **27.7%減**

## オプト事業

市場の進化に対応した新製品開発と生産能力強化への積極投資が相乗し、売上高は前年同期比31.4%増収、営業利益も45.2%増益。

## [ディスプレイ部材分野]

●**TACフィルム**:VA-TACフィルムの新製品に対するお客さまからの評価が高く、大型液晶テレビ向けの販売数量が大きく増加。生産能力もさらに増強し、好調な需要に対応。



## [メモリー分野]

●**光ピックアップレンズ**:圧倒的な市場ポジションを持つBD用ピックアップレンズの販売が大きく伸長。

●**ガラス製ハードディスク基板**:新工場の順調な立ち上げに加え、ノートパソコンの需要拡大により販売数量は大幅に増加。

## [画像入出力コンポーネント分野]

●カメラ付携帯電話用マイクロカメラモジュールやレンズユニットの販売は堅調に推移。

売上高 ▶ **1,094億円** 前年同期比 ▶ **31.4%増**

営業利益 ▶ **189億円** 前年同期比 ▶ **45.2%増**

## Q2 注力分野での販売状況についてお聞かせください。

## 「厳しい環境においても戦略商品の優位性には手応えを感じています」

情報機器事業では、従来から取り組みを進めているオフィス向けカラーMFPに加えて、プロダクションプリント分野において従来機種から画像安定性や堅牢性をさらに向上させた「bizhub PRO (ビズハブ プロ) シリーズ」の新製品2機種を2008年8月から販売開始し、現在のマーケットポジションをさらに向上させるべく、欧米市場に向けて精力的に販売活動を展開しています。

オプト事業では、2008年初めから投入したVA-TACフィルムの新製品が、供給先となる液晶偏光板メーカーや液晶パネルメーカー各社から品質の安定性について高く評価され、大型液晶テレビ市場の急速な拡大とともに、販売数量は大きく増加しています。また、2008年6月には第6製造ラインを本格稼働させ、生産能力や稼働率の向上にも取り組んでいます。BD用ピックアップレンズも、当社グループが有する先進の技術力と生産力

で圧倒的な市場ポジションを持ち、販売を大きく伸ばしています。ガラス製ハードディスク基板は、2008年2月に竣工したマレーシア新工場での生産も順調に立ち上がり、ノートパソコンの需要拡大に支えられて販売数量は大幅に増えています。

メディカル&グラフィック事業については、診療所など小規模な医療施設向けに開発したデジタルX線画像読取装置の新製品「REGIUS (レジウス) MODEL 110」と周辺システム「REGIUS Unitea (ユニティア)」が、小型でシンプルな操作環境を提供するという設計思想が医療画像診断の現場から高く評価され、販売も着実に推移しています。

このように、戦略商品についてはそれぞれの分野において成長の手応えを感じています。しかしながら、世界的な景気減速の影響で先行きの不透明感が増している現況では、これまで以上に慎重な対応が必要と認識しています。



## Q3 『FORWARD 08』の締めくりとなる残りの6ヵ月と 2009年度以降の展望をお聞かせください。

### 「次の成長機会に向けた企業改革の好機と 捉え、グループの体質強化に取り組みます」

下半期も当社グループを取り巻く事業環境は、さらに厳しくなると予想されます。そして、今起こっている世界的な景気停滞は一時的ではなく、長引くことと認識すべきだと考えています。まさに冬の時代ですが、この危機を次の成長機会に向けた企業改革を行う好機と捉え、当社グループの体質強化の取り組みを一層、加速していきます。

中期経営計画『FORWARD 08』は、当社グループの成長に向けて事業収益力や財務基盤など企業体質の強化を目指すものですが、まず、緊急的には経費の削減、新規投資の抑制や繰り延べを進めています。同時に、当社グループが営むそれぞれの事業のありかたについても抜本的な見直しに取り組んでいます。

もちろん、次の成長ベースとなる

「ジャンルトップ戦略」の事業競争力の強化は決して手を緩めません。高いエネルギー効率をもつ有機EL技術を用いた照明事業への参入をはじめ、「環境」をキーワードとして新たな事業分野へも挑戦します。地球環境への貢献と同時に収益面でも期待できる分野への投資は、積極的に行う考えです。

現在、「過去の慣習にとらわれず、大胆な発想で勇氣ある挑戦をしよう」との決意を「simply BOLD (シンプリー・ボールド)※」という合言葉に凝縮し、全グループ会社を対象に企業風土の改革を進めています。グループ社員一丸となり、次なる成長機会へ向けた体質強化に取り組んでいく覚悟です。

株主の皆さまにおかれましては、末永いご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※「simply BOLD」とは、目の前にある目標や夢に向かって大胆な発想で勇氣ある挑戦を続けるというコニカミノルタグループ社員のスローガンです。

## メディカル&グラフィック事業

海外向けを中心とするフィルム製品の販売減少により、  
売上高は前年同期比17.8%減収、  
営業利益も28.7%減益。

### 【医療・ヘルスケア分野】

- コンパクトなデジタルX線画像読取装置の新製品とその周辺システムが医療画像診断の現場から高く評価され、国内外の販売は堅調に推移。

### 【印刷分野】

- 当社独自の技術を搭載したオンデマンド印刷システムの販売に注力するが、国内外とも設備投資意欲の減退で伸び悩み。



売上高 ▶ 662億円 前年同期比 ▶ 17.8%減

営業利益 ▶ 28億円 前年同期比 ▶ 28.7%減

## 計測機器事業

分光測色計および三次元デジタイザの新製品の販売に注力。

売上高 ▶ 49億円 営業利益 ▶ 5億円

## その他事業

産業用インクジェット部材など  
先述の事業セグメントに含まれない事業

売上高 ▶ 85億円 営業利益 ▶ 16億円

(注) 営業利益には消去又は全社費用として76億円が含まれています。

# 02

特集:  
コニカミノルタ  
ビジネススクローズアップ

## メディカル&グラフィック事業

# 「医療現場の声を 知る技術力で 世界シェア35% に挑みます」

コニカミノルタは、世界規模でデジタル化が進む医療・ヘルスケア分野において、最先端の画像処理技術を駆使した製品を展開しています。その核となるCR(デジタルX線画像読取装置)とオールインワン端末による事業戦略を、コニカミノルタ エムジー株式会社の長谷川亨が語ります。

**CRは“医療のデジタルカメラ”。コニカミノルタは医療現場の声を開発に反映させています。**

CRは、医療分野のデジタルカメラといえます。従来のレントゲンフィルムに替わるもので、CRで読みとったX線の画像はデジタルデータです。そのため、コンピュータへの保存、ファイリング、モニター表示による診療現場での活用、インターネット経由で情報伝達できるなど、画期的な特長があります。しかも、コニカミノルタはレントゲンフィルムの開発・販売を通じて、病院やクリニック(小規模診療所)の要望をよく知っている強みがあります。長い時間をかけて培ってきた信頼と経験をCRの開発に積極的に活かしています。

**情報の共有化・一元管理を実現したオールインワン端末「REGIUS Unitea」。**

昨今、大規模な病院とクリニックとの役割分担と連携が進んでいます。医療の効率性から見ても「かかりつけ医」がいるクリ

ニックの重要性は増していくでしょう。するとクリニックと病院との間で、X線画像や血圧、心電図、超音波診断のデータ、カルテの文字情報などを共有化する必要が生じます。クリニックにとっても、さまざまな情報を一元管理できれば効率的です。そうしたニーズに応えるべく、コニカミノルタのオールインワン端末「REGIUS Unitea」は誕生しました。CRをはじめ多くの検査機器とオンラインで連結可能なうえ、低コスト・省スペースを実現しており、クリニックでも導入しやすいのが特長です。

**新興国でのCR普及はこれから。高付加価値化で市場規模はさらに膨らみます。**

医療分野における検査データのデジタル化は急速に進んでおり、X線検査においてもCRを中心としたデジタルX線検査機器の市場規模は全世界で約2,000億円程度と見られています。すでにデジタル化が進んでいる先進諸国と比べ、中国やインド、ブラジルなど新興諸国ではこれから本格化するとする

コニカミノルタ エムジー株式会社  
経営企画部長

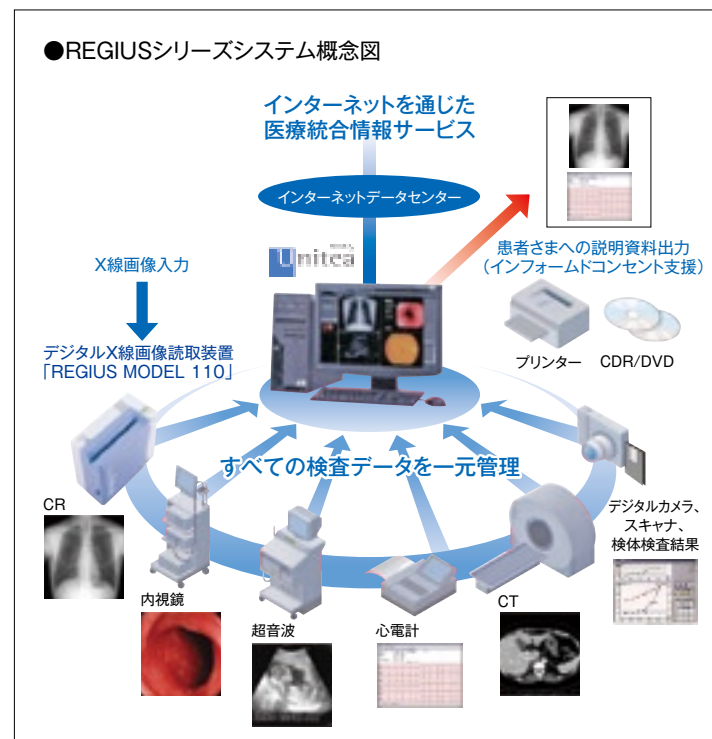
長谷川 亨 (はせがわ とおる)

ので、それだけでも市場規模は数倍となるでしょう。さらに、CRを中心としたシステムによる総合的な医療データ管理が主流になり、同時に検査データの保存や通信なども可能な医療統合情報サービスが実現すると、市場規模はさらに拡大する可能性があります。

### 光学と化学の技術力を、社会貢献につなげていきたいです。

検査データのデジタル化によって、コンピュータや家電メーカーなど、これまで医療分野の経験がなかった多数の企業も参入してきました。競争は激しいですが、コニカミノルタは、カメラや複合機で培った「光学」と、写真やフィルムで培った「化学」の2分

野での技術蓄積があり、また临床上必要とされる画像・画質を理解していることも大きな強みです。現在、CRの世界市場における当社のシェアは20~25%ですが、今後、数年以内に35%を目指します。その一策として、欧米および中国にある海外現地法人のさらなる強化を推進しており、さらに2007年には拡大の見込まれるインド、東南アジアの市場開発を目的としてシンガポールにも販売拠点を開設しました。今後も、医療現場に合った使いやすい製品やサービスを提供し、CRの高付加価値化にも注力していきます。当社の製品やサービスが世界の医療現場で活躍し、社会貢献につなげていくことができればと考えています。



## ■ スムーズな操作感と鮮明な画像が正確な診断に役立っています。

コニカミノルタのCRシステム (REGIUSシリーズ) を導入したのは、診断に必要なX線画像の読み込みと処理能力を備え、設置スペースが節約できるコンパクトさが最大の理由です。レントゲン撮影後にカセット (画像保存用ケース) をセットすれば、モニターですぐに画像をチェックできますし、患者さんにも画像を見せながら、ただちに説明できます。その流れはスムーズでストレスを感じません。モニターで見る画像が高精細なことも正確な診断に役立っています。画像を拡大してもボケたりせず、コントラストも変えられるため、患者さんの指先に小さなヒビが入っていることがわかったケースもありました。高機能なシステムですが、365日24時間のサポート体制が整備されているので非常に心強いです。今後は、一層のコンパクト化と、当院が紹介するほかの病院にオンラインで簡単に撮影データが送れるなど、使い勝手および機能面でさらに進化することを期待します。

## USER'S Voice



六角地蔵整形外科クリニック (東京都西東京市)  
院長 岩澤 範彦 先生



# 03 2009年3月期第2四半期 経理部長の 財務レポート

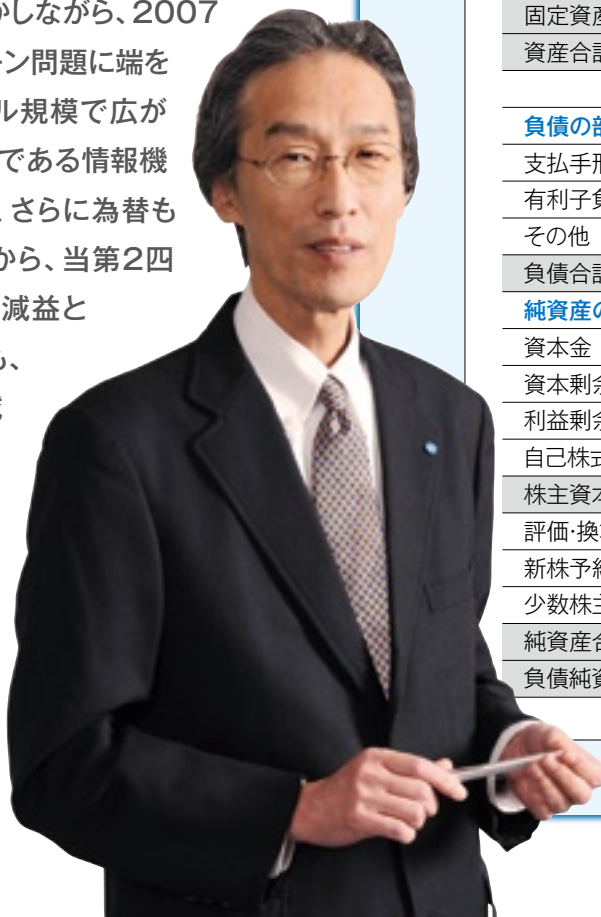
## 「財務体質の強化に 取り組んでいます」

### 概 況

2006年5月に発表した中期経営計画『FORWARD 08』が最終年度（2009年3月期）を迎えており、目標の達成に向け、引き続き「ジャンルトップ戦略」を積極的に推進しました。しかしながら、2007年夏以降のサブプライムローン問題に端を発した金融不安がグローバル規模で広がり、当社グループの中核事業である情報機器事業が大きな影響を受け、さらに為替も大幅な円高に変動したことから、当第2四半期累計期間の業績は増収減益となりました。このような中でも、有利子負債は引き続き削減に努め、前期末比207億円減少の2,053億円となり、自己資本比率は前期末より2.9ポイントアップし、45.9%に達しました。

コニカミノルタホールディングス株式会社  
執行役経理部長

安藤 吉昭（あんどう よしあき）



### ■連結貸借対照表（要約）

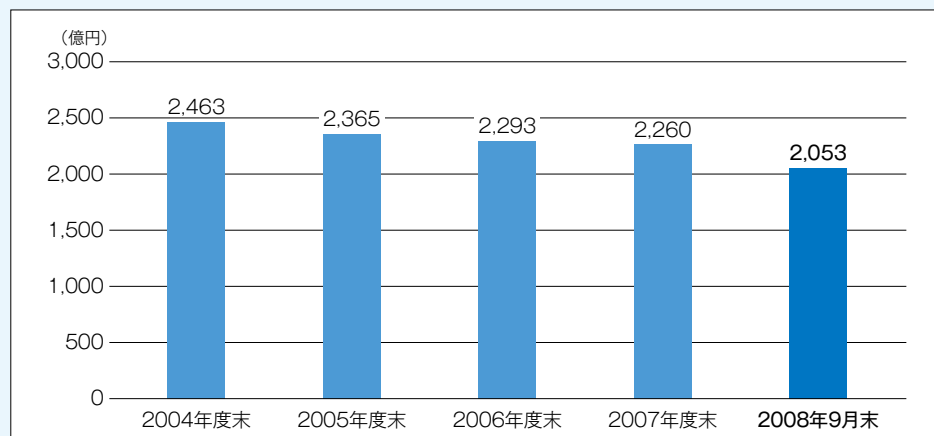
（単位：百万円、未満切捨）

	当第2四半期末 2008年9月30日	前期末 2008年3月31日
<b>資産の部</b>		
現金及び預金	88,278	89,218
受取手形及び売掛金	226,132	234,862
たな卸資産	136,225	132,936
その他	98,292	100,093
流動資産合計	548,930	557,110
有形固定資産	239,788	245,989
無形固定資産	113,046	93,848
投資その他の資産	72,090	73,589
固定資産合計	424,925	413,427
資産合計	973,855	970,538
<b>負債の部</b>		
支払手形及び買掛金	110,009	109,413
有利子負債	205,324	226,025
その他	210,721	216,788
負債合計	526,060	552,227
<b>純資産の部</b>		
資本金	37,519	37,519
資本剰余金	204,140	204,140
利益剰余金	207,290	176,684
自己株式	△ 1,718	△ 1,340
株主資本合計	447,231	417,003
評価・換算差額等合計	△ 515	162
新株予約権	367	286
少数株主持分	710	858
純資産合計	447,794	418,310
負債純資産合計	973,855	970,538



## ■有利子負債残高

(億円未満切捨)



## ■連結損益計算書(要約)

(単位:百万円、未満切捨)

	当第2四半期 2008年4月1日～2008年9月30日	前第2四半期 2007年4月1日～2007年9月30日
売上高	532,971	524,958
売上原価	289,743	265,275
売上総利益	243,227	259,682
販売費及び一般管理費	194,557	202,623
営業利益	48,670	57,059
営業外収益	5,717	5,710
営業外費用	6,510	8,098
経常利益	47,877	54,670
特別利益	6,820	1,352
特別損失	4,842	2,169
税金等調整前四半期純利益	49,856	53,853
法人税等	20,572	16,127
少数株主利益	3	81
四半期純利益	29,279	37,644

## 貸借対照表

当第2四半期末(2008年9月30日現在)の総資産は、前期末(2008年3月31日)比33億円増加し、9,738億円となりました。流動資産は、前期末比81億円減少の5,489億円となりました。これは主に、設備投資の増加や情報機器事業における米国のダンカ・オフィス・イメージング社の買収などの資金需要に加え、有利子負債の返済を進めた結果、現金及び預金と、その同等物の有価証券が減少したことによるものです。固定資産は、前期末比114億円増加の4,249億円となりました。これは主に、有形固定資産におけるオプト事業を中心とした設備投資の増加と、貸与資産の減少、および無形固定資産における情報機器事業でのダンカ・オフィス・イメージング社の買収によるものです。

一方、当第2四半期末の負債は、前期末比261億円減少し、5,260億円となりました。この減少は主に、引き続き有利子負債を削減した結果で、当第2四半期末の有利子負債は、前期末比207億円減少し、2,053億円となりました。

当第2四半期末の純資産は、四半期純利益292億円の計上などにより利益剰余金が増加し、4,477億円となりました。自己資本比率も前期末比2.9ポイント改善し45.9%となり、さらに財務体質の強化が進みました。1株当たり純資産額も前期末比56.07円増の842.27円となりました。

## 損益計算書

当第2四半期累計期間(2008年4月1日～9月30日)の連結売上高は前年同期比80億円(1.5%)増収の5,329億円となりました。この増収は、2008年6月に買収した

ダンカ・オフィス・イメージング社を連結対象会社に加えたことで情報機器事業が前年同期並みの売上高を確保したこと、VA-TACフィルムやBD用光ピックアップレンズなど成長製品をもつオプト事業が当社グループの売上拡大を牽引したことによります。

売上原価は、全社的なコストダウンの取り組みを強化しているものの、販売価格の下落や原材料価格の高騰などの影響を吸収するには至らず、加えて当期よりグループの会計方針の整備に伴い、従来販売費及び一般管理費、および営業外費用に計上していた費用の一部について、売上原価に計上変更したこと、さらに税制改正による影響もあり、前年同期より244億円増加しました。一方、販売費及び一般管理費は、研究開発費が35億円増加したものの会計処理の変更の影響もあり、前年同期比で80億円減少の1,945億円となりました。この結果、営業利益は、前年同期比83億円(14.7%)減益の486億円となり、営業利益率は前年同期の10.9%から1.8ポイント低下し9.1%となりました。

営業外損益は、上述の会計処理の変更もあり前年同期比で好転しましたが、経常利益は、前年同期比67億円(12.4%)減益の478億円となりました。

特別損益は、前年同期比で好転しましたが、四半期純利益は、前年同期比83億円(22.2%)減益の292億円となりました。なお、1株当たり四半期純利益も、前年同期比15.74円減少し、55.19円となりました。

## ■連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円、未満切捨)

当第2四半期  
2008年4月1日~2008年9月30日

I	営業活動によるキャッシュ・フロー	63,986
II	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 53,182
I+II	フリー・キャッシュ・フロー	10,803
III	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 25,526
IV	現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 2,729
V	現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△ 17,451
VI	現金及び現金同等物の期首残高	122,187
VII	連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	498
VIII	現金及び現金同等物の四半期末残高	105,234

## キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払いがありましたが、税金等調整前四半期純利益498億円と減価償却費339億円などにより、639億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、531億円の支出となりました。これは、ジャンルトップ戦略に沿った成長分野への投資によるものが中心で、具体的には情報機器事業におけるダンカ・オフィス・イメージング社の買収と、オプト事業の生産力増強にかかる投資です。この結果、フリー・キャッシュ・フローは108億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、255億円の支出となりました。これは主として、財務体質強化のための有利子負債の返済と配当金の支払いによるものです。

以上の結果、円高による影響で為替換算差額27億円を減算、および新規の連結会社による増加分4億円を加算した当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は1,052億円となりました。世界的な規模での景気後退、市場環境も急激に変化する中、今後も財務の安定性を向上させるとともに、さらなる成長に向け財務体質の強化に取り組んでいきます。

## 04 CSR(企業の社会的責任)への取り組み

乳がん撲滅に向けて「ピンクリボン運動※」を積極的に支援しています。

コニカミノルタグループでは2005年より「ピンクリボン運動」を支援しています。支援開始以来、国内ではシンポジウムやピンクリボンTシャツデザイン展の開催、また中国・上海市では「愛する女性へ健康について伝える」をテーマにした講座「女性健康講堂」を支援するなど、幅広く啓蒙イベントへの協賛を行ってきました。また、超高密度な画像データによつて的確な診断ができるデジタルマンモグラフィ「PCMシステム」の開発など、大切な女性の命と乳房を守るべく、活動を続けています。

### 「ピンクリボン運動」のサイトをリニューアル

2008年秋、情報を充実させてリニューアルオープン。乳がんの基礎知識・セルフチェック方法など、乳がんの早期発見・早期診断の大切さをお伝えしています。  
<http://konicaminolta.jp/pinkribbon/index.html>



### 「ピンクリボン ネイルアート展」を開催

コニカミノルタグループが運営するギャラリースペース「コニカミノルタプラザ」において、2008年10月1～10日の10日間、特別企画展「ピンクリボン ネイルアート展」を開催しました。この企画展では、各界著名人がピンクリボン運動への応援の気持ちを込めてデザインしたネイルアートを中心に、乳がんセルフチェックパネルやマンモグラフィの展示のほか、乳がん体験のあるタレントによるトークショーの開催などを通じて、乳がんに関する知識・検診の重要性を発信しました。



### ※ピンクリボン運動とは？

乳がんの「早期発見・早期診断・早期治療」の大切さを世界の女性に伝える運動です。1980年代にアメリカで始まり、日本で運動が広まったのは2000年代に入ってからのことです。胸元にピンク色のリボンをつけることでセルフチェックや定期検診を促し、乳がんに対する意識を高めるのが目的です。



### 「ピンクリボン活動」支援の掲示板を社屋に設置

コニカミノルタ東京サイト(東京都日野市・八王子市)では、乳がん月間(毎年10月)に合わせ、ピンクリボン活動支援を表明した掲示板を設置し、社員をはじめ地域の皆さまにも乳がんの早期発見の大切さをお伝えしています。(掲示期間:9月19日～10月31日)



### 環境ポップアップ絵本「おうちでエコ！」

コニカミノルタグループが推進する「社会の中の環境教育普及活動」の一環としてコニカミノルタ環境ウェブサイトでは、子どもから大人まで楽しみながら環境について学べるコンテンツ「楽しく学ぼう!エコのこと」を掲載しています。「おうちでエコ!」はその中のひとつ。ウェブサイトから書式をダウンロードし、キッチンやバスルームなどのポップアップ絵本を作り、「水道はこまめに止める」などのエコアクションが学べます。親子で作りながら地球温暖化について話し合うなど、環境問題を考える一助としています。小学生を意識して、カッターナイフでなくハサミで作れるよう設計し、安全面にも配慮しています。

「楽しく学ぼう!エコのこと」  
[http://konicaminolta.jp/about/csr/environment/env\\_contents/index.html](http://konicaminolta.jp/about/csr/environment/env_contents/index.html)



# 05 情報ピックアップ

## 経営トピックス

ダンカ・オフィス・イメージング社と当社の経営陣



**米国の情報機器販売大手企業「ダンカ・オフィス・イメージング社」(本社:フロリダ州)買収完了。**

北米におけるMFP・プリンタの販売網を強化。  
(2008年6月30日発表)



**ドイツ・エメリッヒに物流新拠点を開設。**

欧州市場での物流体制を強化し、納期のさらなる短縮化と輸送費用削減を実現。  
(2008年6月16日発表)



**液晶偏光板用保護フィルムと  
視野角拡大フィルムの生産能力増強。**

液晶テレビ市場の拡大に伴い、神戸市に新工場着工。  
(2008年7月2日発表)

## 製品トピックス

**A4カラーレーザ複合機  
「magicolor (マジカラー)  
4690MF」新発売。**

高性能自動両面スキャナを搭載し、  
高い生産性と精度を両立。  
(2008年8月21日発表)



## イベントトピックス

辛炫周(シン・ヒョンジュ)選手と社長 太田義勝



**「第41回 日本女子プロゴルフ選手権大会 コニカミノルタ杯」開催。**

最終パットまで目の離せない熱闘。  
(2008年9月11～14日開催)

コニカミノルタが特別協賛するメジャートーナメント、「日本女子プロゴルフ選手権大会 コニカミノルタ杯」が石川県・片山津ゴルフ倶楽部 白山コースで開催され、韓国の辛炫周(シン・ヒョンジュ)選手が優勝。優勝争いは、1打差で2位につけた横峯さくら選手の最終パットまでもつれ、大きく盛り上がりました。



## 「重合法トナー」ってどんなもの？

コニカミノルタはジャンルトップ戦略に基づき、成長の見込まれるプロダクションプリント分野に注力しています。同分野の成長の一翼を担う…それが独自開発した重合法トナーです。業界トップを行くトナー粒子の均一性・小粒径化による高画質、低温定着特性、高い環境性能を実現しています。コニカミノルタは2001年から重合法トナーを採用し、改良と進化を重ね生産技術ノウハウを蓄積しつつ、現在は第2世代の重合法トナーを展開しています。

### どこがすごいの？

#### キレイな画質を再現できる

重合法トナーは、従来の粉砕法トナーに比べ、粒子の表面が滑らかで大きさも均一です。それによって表現できる色域が広くなり、かすれ・にじみも少なく、微細な線や小さな文字、写真やイラストのハーフトーンをより鮮明に再現します。さらに定着オイルが不要なので「ざらつき」のない自然な色を表現でき、オフセット印刷に匹敵する色再現性を実現します。

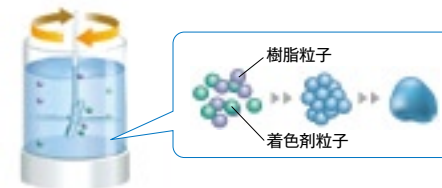
#### 従来よりも低温で用紙に定着する

重合法トナーは低温で定着するので、熱でカールしやすい薄手のコート紙から厚手の上質紙まで対応できます。一般のコピー用紙だけでなく、さまざまな厚さの紙を扱うことで多様な印刷ニーズに対応可能であるとともに、製本処理の効率化もできるのでプロダクションプリントでは大きなメリットとなります。

### どのように製造するの？

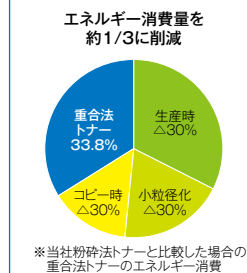
今まで一般的だった粉砕法は、原料の樹脂と着色剤などの添加剤を加熱し練り合わせた後に砕いて粒子にしていた。一方、重合法トナーは、ナノメートルサイズの樹脂微粒子をあらかじめ乳化重合法で合成し、次いで着色剤などと化学的に精密に凝集・融着させて製造するので、小粒径で大きさの均一なトナーができます。

#### 重合法トナーの製造プロセス



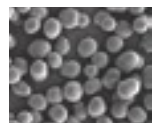
### 環境にもやさしいの？

重合法トナーは、生産からお客側での製品使用に至るライフサイクル全般にわたってCO<sub>2</sub>の排出量を大幅に削減する地球温暖化防止に配慮した新世代トナーです。生産時では従来の粉砕法に比べ、エネルギーを約30%削減できます。また、粒子の大きさを細かく均一にそろえたことでトナーの消費量を約30%、さらなる低温定着により製品使用時の消費電力も約30%、それぞれ削減することに成功しました。すなわち重合法トナーは従来のトナーの約1/3のエネルギーで利用できるのです。



#### 粒子の比較

重合法トナーは表面が滑らかで、大きさも揃っています。



重合法トナー

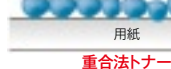


粉砕法トナー

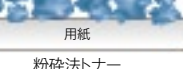
重合法トナーは粒子の均一化・小粒径化によってトナーの散乱が少ない高品質な仕上がりを実現します。

トナー直径：6.5 μm

トナー直径：8 μm



重合法トナー



粉砕法トナー

#### 画質の比較

重合法トナー



ドット

線

文字

粉砕法トナー



商号	コニカミノルタホールディングス株式会社
証券コード	4902(東証・大証第一部)
ホームページ	http://konicaminolta.jp
創業	1873年(明治6年)
株式会社の設立	1936年(昭和11年)
資本金	37,519百万円
従業員数	175名(グループ従業員数 37,876名)
本社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービルディング
関西支社	〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス
主なグループ会社	コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社 コニカミノルタオプト株式会社 コニカミノルタエムジー株式会社 コニカミノルタセンシング株式会社 コニカミノルタテクノロジーセンター株式会社 コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社 コニカミノルタIJ株式会社 コニカミノルタプラネタリウム株式会社



## 当社製カレンダーの贈呈

国内の個人株主の皆さま\*に当社製カレンダーを12月にお送りします。

※毎年9月30日時点で500株以上お持ちの国内の個人株主の皆さまが対象になります。

## 役員 (2008年9月30日現在)

### 取締役

岩居 文雄	取締役会議長
太田 義勝	
並木 忠男	(並木事務所 代表)
蛇川 忠暉	(日野自動車株式会社 相談役)
樋口 武男	(大和ハウス工業株式会社 代表取締役会長兼最高経営責任者)
辻 亨	(丸紅株式会社 相談役)
本藤 正則	
安富 久雄	
石河 宏	
山名 昌衛	
木谷 彰男	
松本 泰男	
松崎 正年	

### 執行役

代表執行役社長	常務執行役	執行役
太田 義勝	山名 昌衛	齋藤 知久
	石河 宏	岡村 秀樹
	染谷 義彦	児玉 篤
	松丸 隆	杉山 高司
	堀 利文	川上 巧
	木谷 彰男	得丸 祥
	谷田 清文	安藤 吉昭
	松崎 正年	亀井 勝
	松本 泰男	城野 宜臣
		秋山 正巳
		家氏 信康
		唐崎 敏彦

注1: 取締役 並木忠男、蛇川忠暉、樋口武男、辻亨の4氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。  
注2: 太田義勝、山名昌衛、石河宏、木谷彰男、松崎正年、松本泰男の6氏は取締役を兼務しています。

## 08 株式の状況 (2008年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,200,000,000株
発行済株式の総数	531,664,337株
株主数	30,608名

### 上位10名の株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	出資比率(%)*
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	34,157	6.4
ジェーピーモルガン チェース バンク 380055	34,078	6.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	29,625	5.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口 4G)	18,686	3.5
株式会社三菱東京UFJ銀行	15,494	2.9
日本生命保険相互会社	12,009	2.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・三井住友銀行退職給付信託口)	11,875	2.2
野村信託銀行株式会社(退職給付信託三菱東京UFJ銀行口)	10,801	2.0
ステートストリート バンク アンドトラスト カンパニー	9,273	1.7
大同生命保険株式会社	9,040	1.7

※発行済株式の総数から自己名義株式数を除いて算出。

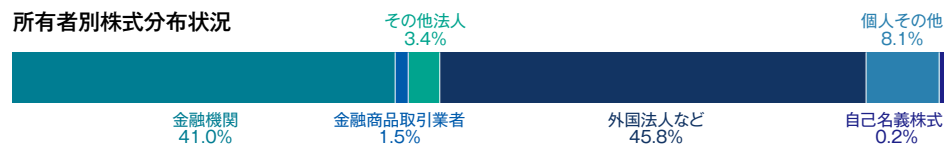
(注) 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの株式会社三菱東京UFJ銀行ほか5名の共同保有者から大量保有報告書により当社の株式を以下のとおり保有している旨の報告を受けていますが、当社として当第2四半期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、株主名簿上の所有株式数を上位10名の株主の状況に記載しています。

大量保有報告書提出会社	報告義務発生日	保有株券などの数	株券などの保有割合
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(共同保有)	2007年12月10日	51,715千株	9.7%

(注) 以下の会社から大量保有報告書により当社の株式を相当数保有している旨の報告を受けていますが、当社として当第2四半期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記上位10名の株主の状況には含めていません。

大量保有報告書提出会社	報告義務発生日	保有株券などの数	株券などの保有割合
フィディリティ投信株式会社(共同保有)	2008年1月15日	44,548千株	8.4%
テンブルトン・アセット・マネジメント・リミテッド(共同保有)	2008年5月15日	35,041千株	6.6%
パークレイズ・グローバル・インベスターズ株式会社(共同保有)	2008年7月28日	33,959千株	6.4%

### 所有者別株式分布状況



## 2009年1月5日施行(予定)の株券電子化に伴うお知らせ

### 1. 特別口座について

- (1) 特別口座への口座残高の記帳  
株券保管振替制度をご利用でない(株券がお手元にある)株主さまの株式は、三菱UFJ信託銀行に開設される特別口座に記録されます。  
(2009年1月26日記録予定)
- (2) 特別口座の管理機関および連絡先  
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL:0120-232-711 (通話料無料)
- (3) 特別口座の口座管理機関における各種請求・届け出等の手続き受付の開始時期  
2009年1月26日(月)以降にお手続きが可能となります。

### 2. 株券電子化前後の単元未満株買い取り・買い増し請求

- (1) 買い取り請求  
2009年1月5日(月)から2009年1月25日(日)まで受付停止となります。  
また、2008年12月25日(木)から12月30日(火)までのご請求分についての代金お支払は、2009年1月30日(金)とさせていただきます。
- (2) 買い増し請求  
2008年12月12日(金)から2009年1月25日(日)まで受付停止となります。
- (3) 保管振替制度ご利用の株主さまは、証券会社により取り扱いの日程が異なる場合がありますので、お取引の証券会社にお問い合わせください。

### 株主メモ

事業年度	4月1日~翌年3月31日
配当基準日	3月31日もしくは9月30日またはその他決定された基準日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先・郵送先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告方法	電子公告 ( <a href="http://konicaminolta.jp">http://konicaminolta.jp</a> )。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告ができない場合、東京都において発行する日本経済新聞に掲載。
株主名簿管理人の「取次所」の定めについて	株券電子化後、株主様の各種お手続きは原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくことになるため、株主名簿管理人の「取次所」は株券電子化の実施時をもって廃止します。なお、未受領の配当金のお支払いについては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いします。

# MILESTONE PLAZA

## コニカミノルタ陸上競技部・松宮隆行選手、北京五輪で疾走!

2008年8月の北京五輪 男子10000m・5000mに出場した、松宮隆行選手に聞きました。

ご声援ありがとうございました



©フォート・キシモト

裸足で走る松宮選手

### 北京五輪を振り返って

北京国家体育場(通称「鳥の巣」)のトラックに立ったとき、9万人の大歓声やライトの光・熱を肌で感じ、これまで味わったことのない五輪独特の雰囲気を実感しました。

10000m決勝(31位)では、決してついていけないペースではなかったのですが、緊張

さらに実力をアップし、ロンドン五輪ではフルマラソンでメダルを目指します。

感もあり普段どおりの自分のレースができず、世界とのレベルの差を感じました。

5000m予選(13位で敗退)では、2000m手前で後ろの選手と接触し、シューズが脱げかかってしまいました。そのままでは走れないと判断し、自分でシューズを脱いで走り続けましたが、このアクシデントとは関係なく、自分の力不足を痛感したレースでした。

レース以外では、日本陸上チームの竹澤健介選手(同2種目代表)や為末大選手(400mハードル代表)とコミュニケーションする機会がたくさんあったことです。

### これからの目標とメッセージ

世界との差を縮めるために、実力のアップはもちろん、練習に取り組む姿勢や自己管理など、あらゆる面で改善・強化をしていきたいと思っています。そして2012年ロンドン五輪では、フルマラソンでメダル獲得を目指したいです。

北京五輪では皆様のご声援が本当に励みになり、心から感謝しています。これからも世界の舞台で走り続けたいと思いますので、温かいご声援をよろしくお願いします。

### ニューイヤー駅伝の連覇で、世界大会へたすきをつなぐ



2008年元日の優勝シーン

直近の目標は、2009年元日の全日本実業団対抗駅伝(ニューイヤー駅伝)2度目の連覇です。過去

8年間で6度優勝という実績には、勝ち続けることへのプレッシャーが伴いますが、選手たちはそれをモチベーションに変える強い精神力をもっています。チーム内で切磋琢磨し、非常にいい緊張感の中で日々充実した練習を積んでいます。万全の状態でのレースに挑みますので、熱いご声援をよろしくお願いします。

今後は、2009年ベルリン世界陸上や2012年ロンドン五輪などに向けて日本代表選手を輩出し、日本の長距離界をリードすべく努力を続けます。そして、世界の舞台で人々に夢と感動を与え、応援してくださった皆さんに恩返ししていきたいと思っています。

コニカミノルタ陸上競技部  
監督 酒井勝亮



### コニカミノルタ ホールディングス株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービルディング  
法務総務部 TEL: 03-6250-2000 広報・ブランド推進部 TEL: 03-6250-2100

KONICA MINOLTA <http://konicaminolta.jp/>

この株主通信に記載されている当社の現在の計画・戦略および将来の業績見通しは、現在入手可能な情報に基づき、当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は様々な要素によりこの株主通信の内容とは異なる可能性のあることをご承知ください。

(2008年11月発行)

単元(500株)未満株式の  
買い取り・買い増し制度を  
ご活用ください

手続き用紙請求先(24時間対応)

0120-244-479 ※通話料無料  
(三菱UFJ信託銀行本店証券代行部)

0120-684-479 ※通話料無料  
(三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部)

インターネットアドレス  
<http://www.tr.mufig.jp/daikou/>

- 株券保管振替制度をご利用の株主さまは、お取引口座のある証券会社にご相談ください。
- 請求期間については、P14をご参照ください。

### 編集後記

コニカミノルタグループ誕生から5年と数ヶ月が経過しました。株主の皆さまのこれまでのご支援に心から感謝いたします。厳しい経営環境の中ですが、グループ社員一丸となり「simply BOLD」を行動のスローガンとして掲げ、大胆な発想をもって勇気ある挑戦を続けていきたいと考えています。

## MILESTONE

本誌タイトル「Milestone(マイルストーン)」は、「道しるべ」を意味する言葉です。

コニカミノルタは、目標達成に向けて着実に歩みを進め、株主の皆さまとともに「マイルストーン」となる出来事を築いていきたいと考えています。当社をご理解いただき、より親しみを感じていただくために、コニカミノルタの現在と未来を分かりやすくお届けします。

